

【委員13名】池田、亥野、大島、大森、絹川、小竹、小堀、中村、新美、林、藤田、谷内、吉岡(五十音順、敬称略)  
【アドバイザー】神谷浩夫氏  
【ファシリテーター】森山奈美氏  
【事務局6名】多田、中川、栗山、中谷、北、横浜  
【欠席者】小松、村井、山岸

#### ◇今回の会議で決定したこと

- ・行政の役割、議会の役割についての議論は次回に持ち越し。
- ・皆の同意があれば、会議を月2回標準として行うが、振り返りもしっかりと行う。

#### ◇主な意見(●は後日意見)

##### 【月2回会議について】

##### ○賛成9名/△検討中1名

- ・月1回ペースでは忘れてしまう、会議が進まない。
- ・振り返りは大切。
- ・ワールドカフェの際、条例の計画表を見た市民会議メンバーに現在予定している開催回数では絶対できないと言われた。
- ・2~3ヶ月後の日程を頂ければ回数を増やしても良い
- ・市民会議のようにチーム分けできる段階にきたら分ける等して進みやすくする工夫をしても良い。
- ・ゆっくり考える時間がもう少し欲しい。時間短縮のため、宿題を出しても良いと思う。
- ・会議の間を考えて欲しい

##### 【会議全体の感想/会議の進行について】

- ・振り返りは重要(複数名より)
- ・振り返りの時間は一体感が持てる。皆で作っているという意識が大切。
- ・市民会議議事録、ワールドカフェ議事録に基づき、振り返りで認識を新たにすることが多かった。
- ・すり合わせの定義で議論が深まった
- ・委員の状況認識ができた
- ・森山さんの進行は面白いです。
- ・まだ条例策定にはほど遠いかなと思う
- ・前回会議と市民会議に欠席したのでいまいち議論についていけなかった。
- ・主体性の判断ができなくなっているのではないか
- ・テーマ(議案)が多くあり、現状認識が大変

- ・がんばって、やってみましょう
- ・赤ちゃんは市民なのかよくわからなかったが藤田会長の話でよく分かった。
- ・キックオフ講演会で条例は市民をはげますという話もあり、難しく考えなくてもいいのかと思い始めた矢先だったが、この会議に出席するとやはり難しいものだと思います。この際、固定観念を捨てて前向きに進んでいけたら良い。

##### 【グループワークについて】

- ・野々市市民ならという形での市民の捉え方が素晴らしいと感じた。
- ・グループワークは楽しい
- ・理想の野々市市民についての話し合いは最高です。
- ・市民の定義について、総合計画に書いてあるのに、なぜ今議論するのかと思い、状況が飲み込めなかったが、話し合いによって飲み込む事ができた。
- ・意見を吸い上げる大切さを学んだ
- ・野々市市民たるもの、どうあるべきか、野々市市民の理想像(市民の役割?)は大変難しい。市民だったら具体的に課題に取り組み解決に結びつけるか。
- ・市民の定義は時間をかけて議論する必要あり
- ・市民をどう定義するか、まだ自分なりにつきつめて答えを出していない。住民と市民の使い分け。
- ・市民の定義に関する議論、決まっていることであても議論することが大切だと再認識した。
- ・一人一人の考え方が共有でき、議論が深まった。
- ・積極的に市民を育てたり探ることが大変だと思う

##### 【その他の意見・要望】

- ・指針と条例は未だよく理解できておらず恥ずかしい。松下先生の話で市民同士の協働があり、福祉関係で自助、互助、共助、公助という説明があったが次回説明してほしい。
- ・指針案、総合計画、条例との整合性が今後も重要
- ・市民協働によるまちづくり推進指針と、まちづくり基本条例との兼ね合い、バランス、関係をどう捉えるかまだ整理できていないので反省。
- ・推進指針案の「具体的な取り組み」に対して行政、議会の各部署ごとに、どのように具現化するかという視点で、誰が考えるかがポイントとなる。

- ・指針、総合計画を踏まえ委員の意見を反映させると時間がかかる、時間をかけて満足できる形にしたい

1. 開会

2. 第11回まちづくり市民会議、市民協働のまちづくりキックオフ講演会・ワールドカフェの情報共有

■第11回まちづくり市民会議の報告

1月30日に開催されたまちづくり市民会議に、本委員会から数名が指針案に対しての情報共有のため参加。市民会議では、藤田会長から、本委員会の状況について説明。その後、まちづくり推進指針案(以下 指針案)を提言する前にワーキンググループ、条例策定委員、市民会議メンバー等の参加者全員で読み合わせ、検討、意見交換を行った。その後、推進指針案は、私たちを含めた意見を基に修正した指針案を、市長へ提言。パブリックコメントを行っている。

【本委員会からの参加者の意見、感想】

- ・指針案「策定主旨」地域で行われる行事や、市の行事の参加率の減少についての文言の主語が町内会→行事への参加率が低いのか、行事の担い手が少ないのかで意味が違くと野々市市民として意見した。
- ・初見の人は理解できるのかと意見した。
- ・各委員からは指針は全体が読みやすいという感想が出ており、修正されてワールドカフェで配布されたものはより読みやすくなった。
- ・指針案の読み合わせで疑問があっても、指針を作った方と条例策定委員では意識が違うため、その場で意見することが難しい状態だった。

■市民協働のまちづくりキックオフ講演会・ワールドカフェの情報共有

市長のあいさつ、まちづくり市民会議の経過、まちづくり基本条例の状況の話、松下先生の講演、グループで条例作りに向けて大切なことは何かを話し合い、発表し、松下先生からの講評。

【全体の感想】

- ・条例づくりとは、単に条例の文章を作るのではなく、

- まちづくりの文化を作ることという言葉が印象深い。
- ・ワールドカフェの参加者の年代はバランスが良い。年配の方だけでなく、若手からも意見が出た。

【ワールドカフェで出た意見】

- ・野々市民の危機感の話、危機感がないところに良い条例や指針が作れるのか。
- ・新旧住民の連携が取れておらず、住民が定住化しない、新旧住民が互いに興味を持てるようにする。
- ・学生等の行事参加で野々市を記憶に残すという意見。
- ・若者に対するPR方法を具体的に検討。
- ・市民会議は指針づくりの際、誰が読んでもわかる表現に苦勞。条例も、市民一人一人が理解できる配慮。
- ・学生が多く、定住化しない問題をプラスに。転出後も野々市の良さをロコミで広める。
- ・ワールドカフェは多様性がある。色々な意見を聞き、条例にどう盛り込むかが課題。
- ・自発心を持つ事が大きなキーワード。まちの行事に各々が率先して参加。
- ・若い世代に仕事を与え、まちや行政に関わることで意見を言いやすい環境作り。
- ・野々市の文化というのは、色々な立場の人の意見を聞いてまちづくりをすすめていくこと。条例作りとは文化を作ることという考え方がベースになる。
- ・市民だけで行う公共サービスを条例の中にかに位置づけるかが重要。

【市民協働の5つの形態】※指針案29ページ



「市民主体」でも皆のための活動はある。(雪かき等) → 「市民主体」は本当に私的領域?

条例の中で、どこまでの範囲を協働と位置づけるか。  
市民主体の活動を認め合う協働が良いのか？

→各委員会の構成メンバーではない人が、互いにどう  
関わるか、今後のためにも作法を決める必要あり。

### 3. 前回会議の振り返り、意見交換

#### ■前回会議の振り返り

まちづくりの課題として、野々市に住んで気になって  
いることを挙げた。また、1つの課題に対し、その課題  
が起こった原因、課題の解決イメージ、解決する際  
にはどんな人物が登場するかをグループ毎に考えた。  
それぞれ挙げられた意見に対して掘り下げていくと、  
プロジェクトが出来るが、まちづくり基本条例は、そ  
れらのプロジェクトの活動を支える条例になる。

- ・出されたまちづくりの課題を、条例としてどうする  
かは具体的に決めていない。
- ・市民会議がどういう協働を考えているのかの把握の  
ために1月30  
日の市民会議に出席することが決まっていた。
- ・本委員会でもまちづくりについての分析は行う

#### ■質疑応答、意見交換

##### 【まちづくり市民会議とのすり合わせについて】

- ・条例策定委員会からすると、市民会議で指針案の内  
容を吟味するよりも、感想を述べるに留まった
- ・市民会議では、指針案の読み合わせを行い、文言が  
違うと意見しただけで、根本的な議論はしていない。
- ・市民会議は指針案に対しての議論より感想だった。
- ・野々市式まちづくり＝色々な意見を取り入れ作る→  
指針作りは熟議したか＝野々市式まちづくり？
- ・市民会議には、条例策定委員会は参加しただけ。  
条例策定委員会：すり合わせ、まちづくり市民会議：  
読み合わせ程度の認識。
- 条例と指針を作る上で、事務局はすり合わせ＝方針  
の違いがないか確認する意味と考えていた。すり合  
わせよりも、情報共有が言葉として近い。
- 条例のほうが指針よりもスタートが遅く、すり合わ  
せる土台がなかったため、市民会議で感想を聞く状  
態に
- ・指針案に対して意見を言いたいならば委員公募の時  
点で手を挙げるべき。

##### 【市民の定義について】

- ・指針案の市民の定義＝総合計画の市民の定義に。  
市民会議で議論されずに総合計画の記述を議論せず  
そのまま用いているのは違和感。
- 市民の定義を議論する度に、一人一人を秤にかける  
ことになる。野々市をベースに活動する人が市民。  
転出しても野々市市民の目線を持つ人は野々市市民。
- 市民の定義については、まちづくり市民会議で資料  
に盛り込む話もあった。総合計画と切り離さない  
意味で、同じ記述にした。
- ・そもそも総合計画における市民の定義とは
- 総合計画で「このような人が市民です」と明確に書  
かれている訳ではない。野々市に住民票がある人、  
野々市市に住む人、通勤・通学する人、企業、各種  
団体すべてを野々市市民としている。

##### 【女性、高齢者、障害者、子供という視点】

- ・指針案には、女性、高齢者、障害者、子供という視  
点がないので、それぞれの視点で書く必要がある
- 障害者や子供、女性と、助け合い、協働することは  
あるかもしれないが、指針案に盛り込んでいない。
- 条例の上に総合計画があるので、総合計画の内容を  
包括しないと、条例として効果は出て来ないのでは。
- ・赤ちゃんも市民か。
- 明記されていない。赤ちゃんが明記されればすごい。

##### 【ののいちキャンパス、野々市らしさ】

- ・指針案の「ののいちキャンパス」、小松市がキャンパ  
スという言葉を使用。野々市スタイルが崩れた？
- キーワードが盗られるということはない。野々市と  
いう小さなエリア全体をキャンパスと見立て、学生  
だけでなく市民も育つ意味。現状を分析して出した  
市の課題から出た方程式が野々市独自の視点。  
自発心×連帯感×創造力＝ののいちキャンパス
- ・新城市は合併からくる協働へのこだわりが特徴に  
なった。野々市は合併をせずに市になったのはよそ  
から来て住んでいる新規住民が多いからでは

**【市民活動支援センター、中間支援組織とは】**

- ・指針案22ページの具体的な取り組みの市民活動支援センター、23ページの中間市民支援組織の設置とは、何を意味するか、どんな関わりか記述されていない。
- 中間組織=人と人をつなぐコーディネーター。  
※総合計画、指針を作る際のアドバイザーとは別。

**■まちづくり市民会議の指針案作成のプロセス**

**【スケジュール】**

平成25年度中に指針案作成。30回以上の会議

3月：公募8名+団体推薦12名の委員+アドバイザー

アドバイザー：金沢大学の安嶋先生

12月：行政で0事案作成、小委員会で精査

※12月15日に、福井県鯖江市へ先進地視察

12月26日：第一次案を協議、小委員会と数回議論

1月30日：第二次案を協議+条例策定委員会

→小委員会で頂いた意見を元に案の見直し

2月13日：最終指針案の審議

2月16日：市長に提案→ワールドカフェで指針案配布

**【進行過程】**

- ・事務局がファシリテーターとしてワークショップ  
…ファシリテーター経験が浅く、まとめきれない。
- ・野々市らしさを重視、他の指針を参考にせず進行  
…目的が見えなくなってきたという意見が出た

↓

運営委員会の立ち上げ(会議運営自体を市民協働。)  
=市民会議のメンバー+アドバイザーから6名を選出

↓

全体会議の前に運営会議を開催

会議の再確認、指針の項目検討=より早い会議進行

↓

20名で議論しても話が進まないで、3つの小委員会を設け、内容の濃い議論を行い、スピードアップ。

**①指針の素案の策定、施策の検討**

=事務局やWGと市民協働として議論、他自治体の指針を持ち寄り、参考にしながら素案作り。

**②指針のリーフレットやPR活動**

=指針作成後、市民協働とは何かを伝える

**③事務局・調整担当**

↓

行政が0次案として指針案を作成

↓

市民会議の第1小委員会が骨子案をまとめる

↓

野々市市の色々な部署から集めた職員で構成されたワーキンググループで肉付け

↓

市民会議第1小委員会で精査後、全面の見直しを行い改めて第1小委員会で1事案を作成

↓

引き続きワーキンググループとの協議により作成

**【総合計画、指針案、条例について】**

- ・指針は、市民に読んでもらえるためにページ数を絞り、市民の思いがこもった表現にした。
- ・指針は市民協働のマニュアルではなく、市民協働に導く手引書。
- ・指針は市民協働を進め、時代に合わせ見直す
- ・委員会のメンバーだけで議論する際、例えば、ワーキンググループの中で、安全安心、高齢者などのテーマにわけて専門的に議論する方法もあり?
- ・指針案をまとめるには、相当な時間と努力が必要。  
市民会議で議論した結果が具体的な内容に表れている。指針案に書かれた具体的な施策について、条例策定委員会でより具体的に、行政職員がどうすべきかをそれぞれ考え、具現化することが大事。
- ・以前は、条例づくりは難しい、知識が無く不安。松下先生の話から、自分に身近なもので条例を作って良いことがわかった。一方で、指針案はもっとわかりやすい表現で作っても良いとのことだったが指針と条例のバランスが分からない。
- ・条例は指針とともに総合計画に包括されており、総合計画との整合性をとらないと形にならないのでは

**4. グループワーク「理想の野々市市民とは」**

今回のグループワークは、大事なことを再確認し、もう一度位置づけるプロセス。市民の定義は、既に総合計画に書かれているが、それぞれの言葉で考えてみる。まちの課題に対して、理想の野々市市民だったらどうするか、「野々市市民なら〇〇でありたい」という文章作り。まちの課題を解決する際に、私たち市民はどうあるべきかが、条例の重要なエッセンスに。



■大島、藤田、池田チーム

- 「それぞれ自分にあった使命をもって生活する市民」
- 「困った人がいたら手を差し伸べられる市民」
- 「地域で生きていく人でありたい」
- 「にぎやかな声で地域に生きる市民」

■林、吉岡、小竹チーム

- 「野々市市民なら積極的に地域行事に参加する」
- 「野々市学を学びたい」
- 「積極的なボランティア活動を行って行きたい」

■新美、谷内、亥野チーム

- 「近所の人にあいさつができる・顔を知っている」
- 「積極的に知る・学ぶ・考える・活動する」
- 「人のことを思いやれる、迷惑をかけない、困っていたら助ける・気にかける」
- 「市民としての自覚をもつ」

■大森、絹川、中村、小堀チーム

- 「自発的に参加して野々市を作る人になりたい」
- 「誘ったり、声をかけたりして関わっていく人」

■まとめ

- ・参加・活動・学ぶ・困った人がいたら助ける、声をかける・関わるといったキーワードが共通。
- このキーワードが、今後の条例作りや、野々市市民の責務や役割として重要になるかも？

5. 閉会

■藤田会長より

今日には有意義な意見交換ができ、それぞれの立場の情報認識ができた。最後に、副委員長である中村さんから、もう少し会議の回数を増やしてはどうかという提案があったが、時間をいただけるなら、皆さんで条例づくりを進めたい。色々と私の意見を言わせて頂いたが、それぞれがそれぞれで動いているという理解の上、私たちの役割をしっかりと認識して進めていきたい。

◇次回への課題

第2回会議で議論した「良いまちづくりの要素」の中から次の点を達成するためには、行政・議会は、それぞれ、何をすべきか。

【達成したい状態】

- ・参加しやすいしくみ
- ・多様な主体が活躍できる
- ・行政が後押しする
- ・市民と行政が近い
- ・情報が手に入りやすい
- ・市民の意見が反映できる

※議会の役割については、難しいので、まずはイメージのつきやすい行政の役割について一人3項目